



謄抄
抜出

特別
子12
3643
47(2)



故
梅若誠
昭
和
重
氏
寄
贈

三輪

海人

志賀

朝長

系清

能多子

芝刈

唐船

三井寺

河濱

舟橋

源氏洪喜

芝道

瑞木

宮林院

安宅

喜台神社
少中麻

持佛堂



〔三輪大明神御鎮座神代大和神也 神躰主系蓋鳥尊ノ御子大己貴尊而男躰也〕

〔玄賓僧都 廿二代嵯峨帝弘仁九年六月寂八十歳河内〕

國人子削氏住山階寺

〔僧都 職原鈔云准四位殿上人云〕

海人

日本紀云允恭帝十一年為衣通姬定藤原郡考大職冠此所居住アリ故姓ヲ藤原ト給リ同十四年秋九月天皇淡路島ニ狩シタマフニ麋鹿猿猪多山谷ニ滿テ如蠅トイヘトモ終日一モ

獸ヲ得タマス於是トクシメ給フニ島神タリテ云獸ヲ得サルハ我心ナリ赤石ノ海底ニ真珠アリ珠ヲ我ニ祭ラハコトノク獸ヲ得ヘト有シカハ所々泉即ヲ集赤石ノ海底ヲカツカシムトイヘ海深シテイタケ不能只獨ノ海士アリ男挾磯ト云一説ニ男挾磯ヲ女ト書ケル者アリ非也是阿波國長岡ノ海人ニテ諸ノ泉即ニスケレタリ腰ニ糸ヲツケテ海底ニ入暫シテ出テ曰海底ニ大ナル鰻^{アヒ}アリ其所光レリト諸人皆海神ノ請フ所ノ珠ハ此大鰻ノ腹ニアラニカト云故ニ男挾磯又入テ彼大鰻ヲ抱キテ浮ニ出ッ息絶テ波上ニ死セリ繩ヲオロシテハカルニ六十尋ニ及ヘリ則鰻ヲサクニ真珠腹ノ中ニアリ其大サ如桃子

則島ノ神ニ祭リ狩ニテ多ク獸ヲ得タリ只男校儀カ死ララ悲ミ
墓ヲ作テ葬サル其墓猶今ニアリト見ヘタリ案ルニ此説ヨリ世諷
ヲ作り出シタル者ナルベシ

〔天兒屋根〕

河内國平岡大明神也春日第三之尊也

〔天地ノ開〕

職原鈔云我朝天孫天降り給フ時天兒屋根

命津速産靈神ノ孫中臣氏ノ祖天太玉命ト高皇彦彦靈神
子ト麻呂部氏祖奉_テ天照太神勅_ラ爲_ル左右杖_羽翼_ト

〔房前ハ不比等ノ次男也四十五代聖武帝天平九年四月十七日ニ
薨ス參議從三位贈大政大臣正一位大職冠鎌足公ノ孫也〕

〔淡海公ハ鎌足公ノ子云ニ不比等_ト四十三代元正帝養老四年八月

三日薨ス

不比等_ヲ淡海公_ト云_フ領_ニ近江國_ヲ故_ニ初_ニ近江

淡海_ト書_以無_レ鹽也後_ニ近_レ都_ニ故_ニ近江_ト書_稱日_々リト

〔新古今〕

補陀_ノ落_乃南_北き_しに_堂建_テ今_うそ_さか_えん_山乃_ノ孫_ちり_こ

此_系ハ_眞福_寺南_田堂_作初_めけ_る時_{春日}也_元本_明神_ト云_フ後_ハ也

〔安海_聖乃_里〕

所不詳

〔高宗皇帝〕

唐第世日本三十七代孝德帝白推元年ニ當ル

〔興福寺〕

草創内大臣不比等爲_ニ父_{鎌足公}建_立和銅七年

供養良_号山階_寺

紀氏真名序云大伴黑主之歌古ノ猿丸大夫之次也頗有
逸典而体甚鄙如田夫之息花前云

二聖八人九赤人

六歌仙

僧正遍照
文屋康秀

在原業平
小野小町

喜撰法師
大伴黑主

山路日暮滿耳者 推子牧留之勢 洞戸鳥啼遮眼者

竹煙松露之色

紀存名

山遠玄埋行客跡

存名

竇往霜來日月除矣

除去云

述記云音王質伐木到
法安石乙山見
圍素与質一物如東接
山之小局未
杯深者泥
在後時人云

無見頂相八十種好第一相之

卷歌

ノ字、禮記第一卷、曲禮篇三出

動天地感鬼神莫近於詩 出毛詩序

薪八谷於

成族排韻云晋王質入石室山杖木視

二童奕棋局終欲立坐下斧柯盡爛云

塵小交

孝士云和其光同其塵

朝七

孝祀寺ハ清涼寺ヲ誤レル歟 釈迦堂ノ額ニ有清涼寺

平治ハ七十八代二條院元己卯年改元

年号云

義朝

辛六代

清和帝九世孫左馬頭正四位下源為義男也

二條院永曆元庚辰年正月三日於尾州野間家人長田忠宗等弒之

本朝通記云平治元己卯年十二月義朝殺其子朝長

永曆元庚辰年長田忠致殺義朝并鎌田政清

私云此說可然

朝長

義朝二男少進五位事見王代一覽

抖擻

ハ義朝ウチハラフ放下ル心

行御ハ一所不住ノ義

ヤシキハ寤ヤシクニウスル心ナルヘキ歟

河

ハ敢テスナキ心歟河海抄ニ無敢ノ字ヲ用ユ

又竹取物語ニ一説アリ

一樹法

太子說法明論ノ語

淺草原

あさちぐさ 類字

廿秋

ちとせ 万葉

延喜式ニ秋と云ベク正監

北邨

北邨ハ山ノ名ニ沛郡ニアリ

一統志云北邨山在河南府城北一十里綿亘四

百里東漢諸陵及唐宋各臣墳多在此

洛城記云北邨山連亘四百余里東洛九原地

鎌田兵衛政清秀郷之後胤之與義朝同死

朗詠

北邨燈共憐深夜月 樂天

有白氏文集十三

朝有紅顏誇世路 暮為白骨朽郊原

保胤

源平

和漢事始云源氏八五十二代嵯峨帝弘仁五年

賜源性信皇子嵯峨皇子也 平氏八五十二代桓武帝皇子始武部 御親王嫡子大學頭從四位下高棟王天長二年七月始賜平朝臣性

保元八七十七代後白河院年号之二三年續ク

平治八七十八代二條院年号之元年改元

忠源太義平

義朝長男之七十八代二條院永曆元年

正月二十五日於六條河原被誅年十九歲

石山寺有江州勢田平六代孝鎌帝天平勝宝六年草創

兵衛佐賴朝

義朝三男之七十八代二條院永曆元年

三月十一日被流伊豆國

弥平兵衛宗清 池大納言賴盛ノ侍

長田忠宗

平治元年於尾張門真庄弒前左馬

頭義朝朝臣并郎從鎌田政清頸於京都

玉尅春

玉限 正切 靈尅 各万葉

とまゆきりはハ是ハ命也極之又もれとほめん少てとまゆきりは

ともり

説の多きに迷ふに似たりハ冠辞考を及ぶ

〔鑑〕をたししておぼしむんと

是ハ常ニトルヤウニハアラス鞍方へ後ヲナシテ下ルヲ云 急事アレバ
左へ如_レ此ヲル、トモアリト云

系譜

〔鎌倉志〕 上総介系譜女人丸其塚今荒神ノ後ニ在ト

〔日向國宮崎〕ニ流サレシ平家おぼし不見

〔新編鎌倉志〕景清篁ハ扇谷ヨリ假粧坂へ登ル道ノ端左大

巖屈アリ悪七兵衛景清篁ノ云

〔長門本平家物語〕景清鎌倉殿へ降人ニ参ケルヲ和田義盛ニ

アツケ其後八田右衛門知家ニ預ラル後大佛供養良ノ日ヲカソノ同

建久七年三月七日湯水ヲ止鎌倉ニテ死タルト云 畧説

〔侍〕 さふさひ さふさふと云言ノ正監

〔尾張〕 をそり 和名 ねりりと云魚ノ正監

〔言語道断〕 朱子稱陸象山ヲ言語道断心思路絶云

法華經安樂行品云言語道断不生不出文

〔かしほ〕 誼譯

〔梓弓〕 伊勢物語ニ梓弓直弓 櫛弓ノ

〔扶持〕 内則ノ字

めくす杖をうしちふ

陣同甫集 別去惘然

若^若盲者失杖

三保谷

武蔵名アリ

盛衰記 丹生屋 平家物語 三穂屋 武蔵國住人四郎

藤七十郎 同名三人アリ 爰八十郎ナリ

盛衰記 小林神五宗行カシコロラ 越中次郎兵衛盛嗣カ

熊手ニカケテシコロラ引キリ 甲ノハチハ頭ニトマリシコロ只熊手ニ

トマルヨシ見ヘタリ

法華經藥王品云 如闇得燈 如炬除暗

鞍馬の狗

鞍馬ハ山城國愛宕郡 寺ハ五十二代桓武帝延暦十九年草創

鑑真和尚藤原伊勢人被修行俗説辨云真言傳云鞍

馬ノ僧正カ谷稻荷ノ僧正カ峯ハ壹演僧正慈海ノ行ヒケル跡

ト記セリ壹演僧正ハ大中臣備前治知カ子ニ五十六代清和帝

貞觀九七月十二日化ス

天狗ノ説マキナリ山海經 陰山有獸其形如狸名曰天狗

韓文ニ天狗形如犬走ハ有聲云云

四維山子カ神社考ニ人倫ニ我慢忍嫉アル者多ク天狗ノ中ハ歷代天子僧

近頃但来

蘇生抄云天狗説を去り見へし

徒モアリトイヘリ

雲珠櫻

うずさく

詠物多類字

袖中抄云珠櫻ハ唐物ノ雲珠ニ似タレハ物多ノ縁ニ云
其藻塩州ニ雲珠ハ饒越ノ具ニ

朗詠

遙見人家花便入 不論貴姓與親疎 白樂天

本字ハ存クニ根本トアカル云ニ大悲ハ觀音ノ義多門天ハ毗沙

門天之名ハ不同ト上トモ本躰一也ト云フソ 此事見元亨釈書

平家物語云九條院雜司ノ女有二男一醍醐卿公二園城

寺惠禪師三義經也 常盤ハ源義朝妻ニ後清盛召

テ為妾

愛宕

開山慶俊法師 四九代光仁帝天應年中ノ人也

和氣清丸建立 本朝年代記云慶俊ハ中興第二ナリ

恭澄和尚開基 和氣清丸建立之云

高雄

雍州府志云在京城西北三里計山形似鷹鳥

尾故或ハ稱鷹鳥尾山

比良

近江國志賀郡

横川

三塔ノ内東塔 江州ニ

吉野

初瀬 各和州ニ

四州

四國也

零落

楚辭離騷云 惟草木零落モレ 朱子註云草

曰零木曰落

琵琶行 門前零落鞍馬稀

僅落落 落魄潦倒 類字

也如名も可ふよりてかそをけり 難波の芦ハ 浮揚記 古き連き此句と
菅家集 津乃國に難波の浦おより河もおそし入に乃草とて飛きけ

得不知 えずとせぬ 敢不知 類字

おあし 謂用脚兩足料足有る也

晉書魯廩之著錢神論其略云無翼而飛無足而走云
白王蟾集雲遊歌 初到家山辭骨肉有錢二百足云

三津浦 三津 敷津 難波津 以上三津浦と云

網兒調 以ごとくのふ 一万多ふ類字出

あむあハ 網引こ あごハ 網子こ 網引人の

辟月四智の立而 ひぢがさあえ 類字

起別 ねきまふん 日

包井 けいゐ 日

まゆ田居あハ まるよあろこ ハ 玄房抄 的居 類字

枝たじ攪 ちもたぢ 枝乃たぢむこ 類字

ともちよひ 引唱 誘引 倡行 二ともいさふとも 類字

唐 舩

華夷通商考云四明明州津是今寧波ヨリ出舩スル故
此津ヨリ出稀ク

桎 飼

のがひ 類字云

史記周本記云 縱^{ハナチ}馬^ヲ於華山之陽 牛^ヲ於桃林之墟云

前漢書司馬遷傳云假令僕伏^レ法^ニ受^レ誅若^シ九牛亡^レ一毛云

箱崎神

六十代醍醐帝延喜二十一年垂跡肥前國

箱崎松原 延長元年造立云

鮑昭行路難云心非木石豈無^レ感^云

白氏文集 人非木石皆有情

おしころハ 難波の松河云

名海をしいはをこ
おしころハおこ 此云かき叶は

三井寺

金湯録云 十年拜枯樹 枯樹生^レ化

三井寺長等山園城寺ト号ス 三十九代天智帝天武帝

持統帝三代爲御願寺 教待和尚建^レ其後貞觀

十年付屬^ス知證大師

盛衰記云 天智天武持統三代御産湯ヲ汲タル故ニ

三井寺ト名付タリ云

湖照海

よほそふうこ

類字

鳴海

江州

譚子政漢篇云 夫禽獸之干人也何異有巢穴之居有夫婦配有父子之性云云

東見記云 桂生三五夕賞開二八時

三五夜中新月色 二千里外故人心 樂天

月山風そとく礼小乃乃海

後普光院良基乃在至矣反句之

吳說宗祇乃作こと

秀乃卿

鎮守府將軍從四位下号依藤太 大職(冠十八世孫

四條家余流也

謝詠 夜登庾公之樓月明千里

謝觀

晋庾亮之

緇苑殘芳云

團々離海嶠 冉冉出雲衢 今夜一輪滿 清光何處無賈島

註團々目之海嶠海山之冉冉行息之雲衢雲卷之嶠山之嶠山之

日本紀六卷云 樹是土物無傷人焉

又杜律五律 冉冉谷中寺 冉冉高見鳥 又カレカレ鳥

楚詞云 老冉冉其將至註冉冉漸之此字訓カナリ

初夜 後夜 晨鐘 入相

益夜六時ノ中 中夜ト日中トヲ除テ四句ノ文ニ合ナル也四句ハ涅槃經ノ文也

長樂鐘聲花外盡 龍池柳色雨中深 錢起 三四聯之

鼉鼓 二九元 類字 又鼉鼓 二九く乃一説あり

新古今 能因法師
山守持子云乃夕暮

は乃國令毫守小てよみくるとらん

新古今 小坊後
まの音小之りま

世余小より侍育乃侍後とをうく

楓橋夜泊 月落多啼鳥宿て江村漁火對愁眠

張継

面伏 ねもくぶせ 類子

河漕

雲溪先生云、阿漕ハ阿濃也。阿濃津、阿濃浦ト同、夏ニ濃ノ字
コキト讀ム故アコキト清テユヘキシアコギト濁テト大ニ誤リタル漕ノ字後ニ書カエ
タル誤ナリ阿ハ大ニ大ニ濃ト云名ナルヘシ

六帖ハ古今

仁徳天皇御宇に
秋林不...
...

是もてふを

内宮ハ十一代垂仁帝二十六丁巳九月十七日弭奉遷ニ天照太神於

渡遇宇治五十鈴川

外宮豊愛太神 二十二代雄略帝二十二年秋七月七日從丹波

國余佐郡真井原奉迎度遇山田原 内宮鎮座後四百八十四年

い染を乃あす 伴路男 弘良太史者古今真名序ニ人丸秘抄

憲清 鳥羽院北面侍ニ父ハ佐藤康清ニ

法名四位後号西行大職冠鎌足公十五世 四條家余流ニ

志安肥 志安肥 志安肥 志安肥

顯昭の類字ニ出

新古今 能國法師
山守此 乃夕暮り

は乃國公之毫守小てよみくるとらん

新古今 小坊後
まの 宵小 文のり

世より侍育乃坊後とらん

楓橋夜泊 月落多啼鳥宿 江村漁火對愁眠

張繼

面伏 ねもくしせ 類字

河漕

雲溪先生云 阿漕ハ阿濃也 阿濃津 阿濃浦ト同 莫之濃ノ字

コキト讀ム 故アコキト清テ云ヘキシアコギト濁テト大誤タル漕ノ字後ニ書カエ

名誤ナリ 阿ハ大之 大ニ濃ト云名ナルヘシ

六帖ハ古今

あきこねて... 又こまらなも... ともなるまの

是もてふちるべし 正監の假名也 帖 ずい 類字

内宮ハ十一代垂仁帝二十六丁巳九月十七日 弔奉遷 天照太神於

渡遇 宇治五十鈴川

外宮 豊愛太神 二十二代 雄略帝 二十二年 戊午 秋七月七日 從丹波

國 余佐郡 真井原 奉迎 度遇 山田原 内宮 鎮座 後 四百八十四年

い染も乃あ戸 伴路男 弘良 支者 古今 真名 序 人 九 秘 抄

憲清 鳥羽院 北面 侍 父ハ 佐藤 康清

法名 田位 後号 西行 大職 冠 鎌足 公 十五世 四條 家 余 流

志 萎 肥 子 けき 物 号 とい 詞

サキ 女 心 心 顯 昭 の 類 字 出

うゝむまは 云は乃流小あふるをりけする心

志ちうへうゝぬまと心もかしらふけもあもふさ海いふも抄目

アヤアハ 日本紀 迅風洪濤 アヤハミ チトテト通音

志支浪ハ 敷波と云 又頓波とも 志きりちる心 シキ

あごご海 長門國モ名野アリ あごハ阿濃乃略シ 世スソゴナドニ濃ノ字ヲ云カ如シ

催馬樂律 伊勢州ノ清きちきさい志はういふちのりそやはまんかや指

舟橋

司いさり 五乃いさり

焔 ぼ乃が 火ノ穂ニ正監

醒井 十二代景行帝四十年江州醒泉ノ名醒井

往事朝事 眇茫都似夢 舊遊零落半 皎泉 白居易

美美系系

まんふふ正監 まんえうちう 類字ノ心

美美系系 十四上野國系 ありはさ乃法聖おみ橋を放し

親はさくれと和波左可流賀信 仙覺云 とりそあしハ放し

かへとはかいと云こ おやハさくれとあハそれるかいとこ

宗祇曰ハおみ橋おちき時ハぬてぬしをと云 此おハさハ親

小知を寸人小聚るもも道乃み橋をそれちさくれとも我ハさ

らるかいとよるりかハかるといふ詞 かえりてにこ 季吟拾穂抄表

役優波女塞

えん乃うむとく 類字

役小角

三代欽明帝五年正月朔日名役小角 大和人也

常食松入仙宮使鬼神四十代天武帝三年五月穴鼠
伊豆島後飯同大宝元年六月七日入唐

祈王し久米路乃橋

大和乃名不之彼此行者大和國葛城山乃穴屋小居て秘法
を祈ひ鬼神をも順へ使ひし或時葛城山家より吉野乃
山如る小橋を造りて通海とせんと思ひて葛城乃明神一言
主乃神小是とわさると云明神かちんくまきま夜をく
渡さんと宣ふれば行者亦あてまきりり文武天皇此下は清き
給ひて彼乃優婆塞國をかこさんと以早く心まきまへきせ

奏中侍御門御多き給ひて使を遣りしと搦取んと給ひし
是乃宣を翔りて搦取しはそかり小母を石に連はしり初
以者母小代んとて末至るふと搦取て伊豆國小流し給ひ
わしけりそ連より石橋もかちりして果々多ふなり

一言主 元享釈書右小角縣心岩橋古事

魂 万葉十五 たまふと云るは正監

文選十九高唐賦云 且為行雲暮為行雨朝々暮々陽臺下

行 たこまひ と乃字と書ハ誤ハ正監

日本記 允恭天皇此紀六くも此七ふるまひを區シ茂能ノ於ラ虛コ太ナ比ヒ也ナリ

いさ 不知 類字

うし 之川 一時を四列してはるは子ひとら又うしをさるる云り
季吟記

鵲の行合は間 秀林良枝 うまなまびき七世及之し

夜やさむき衣やうす起かきてはけい合乃るより 格 案やまらん

後頼臆脳抄云 仁吉大明神事

夜やさむき衣やうす起かきてはけい合乃るより 案 やまらん

いも 妹嫌 万葉

源氏供事

河海抄云 西宮左大臣 和二年大宰掾師左遷を連玉ひり

藤式部おさなくより列なりとおもひをさるるは比大弁院選
子内親王村上女十宮の上東門院へ移りかきたる双鳥や侍ると
たつ年中させ玉いづるにういはけは屋の古御流は月をれ
多まハ新く他王出てなるへきより式部小治付れ侍れ
石山小通夜して世を祈中と小村も八月十五夜乃月湖水小
移りし海流るまに御流乃風情を小治に多るとわすれぬ先
小とそいふ小みさる大般を此料紙を本なる小中うさるま
源平の事乃西書を書く久きり是ふより源平乃書小々音
いす夜よりけりと思ふこと侍るとやそ後死後懺悔乃

為不殺者一部六百卷と手抄りて去て在納を今よりして
彼寺小ありと云

深草乃元政如草山系小式部八天台覚運洛都斤
一心之観乃玄旨と云り天台六十卷小比しと云
帖と云筆法ハ司馬氏ハ史記と云小意ハ佛法を今得て
堂乃志小く妙と顯す

石山寺 四十六代孝鎌帝天平勝宝六年御草創安居院
藤少納言信西孫号ハ聖覚法印安居院ハ叡山ノ安居院ニ
江州石山寺開山朗辨僧正聖武天皇ノ御願ニ赤女釈書

本曲系ノ
又ハ始終
依リテ
以テ教
五帖中
五帖當
曲系入

龍門原上土埋骨不理名樂天

深更ハ分一夜於五更取初夜於初更取五夜於夜明其
更ノフケルヲ云深更ト

通こぼる 日本紀古事記万葉古語拾遺ホこぼると云ハ

有と星とハと貫之よす正監

白玉蟾集云人生無百年能有幾一日況百年三萬六千日

覚樹ハ云菩薩提樹

適佛意 聖覚法印ノ表白ニ佛教トアリ

零標 こぼる 水尾津ツツシ藏也 水尾ハ水脈と云書

水乃深きゆゆみは深きゆゆとみと云もさるる小なる木之 津ハ助語之 正監説

漂漚 みまばら 水忍 衝石 各万葉歌字説

忍辰守ハ やりくまこ

位 くらわ 座シラ居サ乃ナナシ海シ

情冷 かけろふ 正監 遊絲 かろろふ

万葉集ハ 火火とも 晴火とも あり 正監

願朗詠以ニ今ニ生シ世俗ノ文字ノ業ヲ狂言ト詩語ト誤リ翻メ為ニ當來

世々ノ讚佛ノ衆ノ之ノ因ト轉法輪ノ之ノ縁ト 樂天

廿二

當諷ニ妄説ト多シ廣益俗説辨云今按レ旧事記ニ繼體天皇ヲ

男大迹ヲ天皇ト更名シ彦太尊ト云有男大迹ヲ大迹辺ト誤リ照日ノ

前ト云ハス古事記安閑帝ノ母尾張連ノ之ノ妹目子ノ郎女ト有

日本紀繼體帝ノ父彦主人王越前國高向ノ振姫ト云者

容色有シカハ納テ妃トシ繼體帝ヲ産ス帝幼年ノ時父薨シ玉ヒシ

カ振姫男大迹ト共ニ高向ニ歸リ養育シ奉リ其後上洛シ

玉ヒ即位有テ御母ヲ貴テ皇大夫人ト申スト有ニ旧事記饒速

日尊長ノ髓ノ彦ノ之ノ妹御炊屋姫ヲ娶リ姪時ニ尊姫ニ命シテ汝カ

生子ル若男ナラハ味間見尊トナワケントノ多クヒシニ既ニ生ミ玉ヒシ子男子

信夫欽摺

真名 伊勢物語出

志乃ふらぢすり 類字

僧祇律云佛諸比丘告曰過去世時有城名波羅
奈國迦尸ト云空閑處獼猴遊行樹下井アリ井中ニ
月影有ラ見テ共ニ木ノ枝ヲトテ午ト尾トニ取付井中ニ
入テ月ヲ取世ノ闇ニナランヲ恐ル枝折テ一齊ニ死ス是ニ擬
猿捉月ノ譬也

漢王ハ前漢第六世宗孝武帝也

夜涼殿 名目抄云在清涼殿内

漢書外戚傳云李夫人少而蚤卒上憐閔焉圖畫

其形於甘泉宮云云

白氏文集卷四云不言不笑愁殺人又甘泉殿裏令寫真

漢書云初李夫人之病篤上自臨候之夫人蒙被謝曰

妾久病病形見毀壞不可見帝云云

又云上思李夫人不已方士少公羽言能致其神迺夜

張蠟燭設帷帳陳酒肉而令上居他帳遙望見

王也乃中夜子 傳不見

辟女妾 左傳云左右近習者

說文云人賤而得幸曰辟女云

妾の刻を
人定とい
ひて人定
づける時
積千つむ

つむ千つむの邊表を以て人定と云ふ

十二時異名
夜半子 雞鳴丑 平旦寅

日出卯 食時辰 禺中巳

日中午 日昃未 晡時申

日入酉 黃昏戌 人定亥

白氏文集四九萃帳中夜悄悄返魂香降夫人魂夫人之
魂在何許香烟引到林火香處

返魂香本草綱目卷世四香木一アリ

詩經東山四章熠燿其羽集註不明魚

白氏文集云縹緲悠揚而還滅去云

文選十二海賦云郡仙縹緲善註云縹緲遠視魚也

形見 遊仙屈記念字ヲカメトヨセメリ 白氏文集六信字ヲモヨセメリ

錦木

志のふ山 奥州 信夫山と云れ信夫郡乃山と云る一

挾布細布 けふ乃不之ぬの 一説毛布細布類字

挾布 けふ 陸奥小挾布郡ありとハ暗推之 全サイフ郡

只波國よりせいき布と出と破小こちけふのふ細布と云る正監

會津風土記云細布出伊北郡

歌林良材無名抄と引て云鳥乃毛ふて織まる布之多かぬ
あふて織しる布をれハ機張せいと云云

又云錦木ハ一説云奥乃夷也男女よめんとてハ文をやる中ハちりて
一尺計の木とまぶら小色どりてて女乃門小立まハ色通ると
思ふ時ハ十束小成て取入ると逢とと思ふ人ハ入る

小よら其まろ朽ろことろ

衣年杜モリ山城

妹脊川 紀州名所 吉野川ハ大和ニ 紀伊乃海へ流る

末とを吉野川と云

詠松桂枝狐藏蘭菊叢 白樂天

はのなる 吉野ハ草かりてほのなるなり 阿乃乃乃

せち王ハ國王大臣ニ 十とぶハ奴也 此と記をいふハ吉野也

いふまゝくさくさ底に入ぬまハせち王もわのれさるけり 弘法大師

出清輔袋草紙

天生之四姓 一 刹利 王種 二 婆羅門 百名 三 毘舍 商賈 四 首陀 農人

後取臆腦説小ハ

弘法大師へはのりける

いふまゝくさくさ底に入ぬまハせち王もわのれさるけり 弘法大師

かく中たのむとをいれる君さるハ多き山をもつてふるちりけり 下略

業平 阿保親王五男平城帝ノ御孫從四位上左近中將

五十七代湯成帝元慶四年五月二十八日薨 行年五十六歳

綴蝨 つまき 類字

綴ささよと鳴虫ハ衣乃ほまよると淀ろふや 或説ニ蝨乃一名と

ちのまひそハさよと淀ろ細布織てとよとん福にといふ

^訓新豐酒色清冷於鸚鵡盃之中

雲林院

雲林院と遍照寺は後より

滑正遍照

わい人乃王に之より木姑をに於むるに多し

雲林院、常康親王の院号也。天子御狩場也。委山城名勝志

伊勢物語作者説多し。決疑抄亦往考

公光 未考

蛭子浦 云按州西之

折 云云 万葉 杉と云へるに 正監

安宅

安宅 加州

富樫 出平家物語 不見 関守沙汰

頼朝 義朝男久安四年卯月八日出生 七十八代二條院 平治二

年三月十日 被流 伊豆國 八十一代高倉院 文治四年於伊豆國

拳義兵八十三代土御門院 正治元年正月十二日薨

義經 頼朝弟 稚名牛若丸 又沙那王丸 又号源九郎判官

判官 左衛門大尉也

山伏 四十五代聖武帝天平年中為始 役小角

鴻門たてやぬき

史記列傳樊噲出其語云樊噲在

營外聞_ニ支急_ニ乃持_メ鐵楯入_テ到_リ營_ニ管_ヲ衛_ル止_シ噲_ハ噲直_ニ

撞入_ル云

伊勢_ニ三郎_ハ鈴鹿山賊駿河_ニ三郎_ハ平家物語_ニ不見_ル片岡

長門壇ノ浦ニテ取_リ揚_テ神璽返_ル入_ル都_ニモ_ノ也 増尾ハ義経ノ

家來トハ平家物語_ニナシ常陸坊同前辨慶ハ熊野別當

辨心_カ之子_云

二月十日夜

平家物語_ニ文治元年十月六日夜出都而

北國_ニ落玉_ヲヨシ見_{タリ}

海津浦

江州北郡

有乳山

木芽山 木芽峠 三國湊

各越前

氣比宮

十四代哀帝御垂跡

筥飯海

けいのうみ

越前敦賀郡

麻生津

あさふつ 和名

越前国丹生郡_ハ名 正監

竹條懸

大峯山ノ竹條_ヲ分_シ時_ニ用_ル具_ニ

雨皮

掛_ル篋_ニ覆_セ也桐油_ヲ紙_ヲ用_テ防_グ雨_ニ故_ニ雨皮_ト云

形箱

十六道具書云_ニ何_レ此_ノ箱_ハ入_ル峯_ニ修行_ノ革_同金胎_兩

部_ニ秘密_ノ灌頂_{三世}諸佛_ヲ行_ハ是_レ則_チ真言_秘函_{行者}心_藏也

綾ハ階ハ笠

蘭ニテ編 今用レ檜

金剛杖

獨ニ鉦ノ形ト 又云ニ檜杖トモアリ各別ノモノ

頭巾

表ニ五智五佛ノ宝冠ト

十二因縁

一ニ無明二行三識四名五色六入七觸八受九愛十取十一有十二生十三老十四死十五

九會

金剛界也

一ニ印會三理趣會四降三世會五降三世昧會六成身會七微細會八供養會九四印會

曼荼羅

輪因具足トテ無キ缺イフ

胎藏黑色脚羊ノ六筒脚羊ノ 黑色ハ無明煩惱ノ形ト

緒ノ白ハ法性ノ 無明法性ニ不二ノ心ト

強力

山伏ハ自身形ニ不動トハ強力ハ表ニ於テ伽羅制多迦ト

冥加

中臣後集註云ニ豊受太神託メ倭姫命宣神

以テ祈禱ニ為シ先冥加以正直為本ト云

東大寺

四十五代聖武皇帝天平二十年二月ニ草創ト肇

嚴三論具言又八十二代後鳥羽院建久六年三月ニ建立ト

成就供養道守師仁和寺見憲法親王俊兼坊重源行之

源賴朝警固如故建立佛師宋陳和卿ト云

秀衡

奥州守護藤氏鎮守府將軍從五位

八十二代後鳥羽院文治三年十月十九日死

不祥

古史記訓 ぬさハハと云

不祥ノ字孝子經孟子出

往來卷物ハ 明衡往來 雜筆往來 尺素往來 庭訓往來ノ

寂愛婦人 光明皇后 不比等之女也

甲六代孝鎌天皇ノ 天平勝室六年薨

類カ

盧遮那佛 聖武帝十四年 詔僧行基 勸進天下金銅

大像成今 奈良大佛是也

俊兼坊重源 造宮東大寺大佛殿 八十二代後鳥羽院

建久六年六月六日 化東大寺

淳沉 史記游使傳云 山豈若^{ナラニヤ}早^ハ論^メ齊^ノ俗^ニ与^テ世^ニ淳^シ沉^ス

而取^カ榮^カ名^ヲ哉^カ

周章 字彙 周章 怔營貌 注云 性營 惶恐不安

法華 出周 悵惶怖ト 家語 周章 遠望ト

うち刀 或說 昔ヨリ有^ル道具^ト 捻^テハ 如^シ太^ク刀^ノ アシオビトリ

シハヒキ モヨセ ムチムスヒ ナドキモノ

二月や下の十日 平家物語 不見

詩人玉屑卷 雪晴 山脊見^ユ云

三体詩 逢賈島 馬蹄今去入 誰家^カ 張籍

山谷集 旦然^ト聊^カ爾^ト耳^ト

手先遮 さまいさへきゝる 類字

流過手先速

菅稚規

三塔、東塔西塔横川也

鼓冬、鼓音

易天澤履卦九四、履虎尾、翔終吉

又書、君牙云、心憂危、若蹈虎尾、云

春日龍神

日本ハ世界ノ當東震旦ハ當西日入國ト指震旦天竺

梅尾山 雍州府志云在山城葛野郡平岡北

明惠 元享釈書云号高辨、姓王氏紀州在田郡

人也春日明神ノ皈依夏釈書無之山城名勝志明惠上人行
狀云寛喜三年十月十九日奄然寂春秋六十同九日葬禪
堂院後元号成辨

本朝年代記云八十五代後堀川院寛喜四年正月十五日入滅住

梅尾云

梅尾 此かのと 万葉和名おもとと云へり正監

入唐事 百六代後奈良院天文八年嵯峨天龍寺策彦

入大明世後入唐人絶

春日明神 四八代称徳女帝神護景雲二年正月九日

筆跡和州三笠山御殿 同年十月九日始造宮

天兒屋根 春日第三御子藤原氏祖也

四所

三以屋乃清乳 春日末社有水屋明神

笠置 雍州府志山城相樂郡隔木津川而東西有笠

置村西笠置有山始号鹿鷺山其山至峻峻也

解脱 元享釈書第九尚書左丞貞憲子興福寺

出家元曆帝破笠杖肩ニカケテ糸内也 八十四代順徳院

建曆二年二月二日 住笠置

隨意 まいり 間少く

天台山 方輿勝覽云台州在高一万八千丈周八百里

五臺山 三藏感通祿云岱州辰巳在五台山云五臺山

比叡山 城州江州掛兩國 天台宗之故比天台

靈就鳥山 釋尊説法山之在摩羯陀山頂似就鳥故号

さやちきハ 法とかけリハ言少抄

鹿野苑 在天竺波羅奈國昔佛成鹿利益衆生之故

名鹿野苑見大論及善見律等

西大寺 四十八代称徳女帝天平神護元年草創大和

七大寺

東大 興福 元興 大安 藥師 法隆 西大也

時風季乃行

常陸國ヨリ大和江影向時供奉ノ兩人ナリ

八大龍王

六ハ文句アリ 七ハ摩那斯龍王 八ハ優鉢羅龍王

和田乃ハ海乃ハ熱名ハ

棹此川原ハ 大和乃名所ハ

飛火乃聖守 烽野守トモ

僻案抄云春日聖小飛火と云事あり燒立れける故と云其野を守る人を
野と云唐乃烽火也如し日本此烽火之伴約ハ飛火隈煙と云ハ淡路江島に又
煙と云方之を此と西國に分て云ふ此於急に取知て煙を焚きたる日本にハ烽火燧春日

乃飛火より火をハ立初る

當二林寺

當二林寺 和州

三十二代用明帝第四皇子之磨呂古ノ草創也

道守師慧灌始名禪林寺ト

十ハやハ是ヤ乃畧ハ

岩田川 紀州

續信遺 岩田川 流るる乃涼れハ亦モありと云ハハけり也

二上山

大和葛下郡 大和与河内間ハ 越中同名アリト

二上嶽

貝原氏大和廻ニ云九子山上二上山云名所アリ

葛城山續ケリ北有云唯山獄一早二兩山並リ故云二上山獄ト云

一心弥陀佛 無量壽時經表

釋迦ハヤミ 觀經疏云釋迦此方發遣 弥陀彼國來迎矣

超世悲願 無量壽經文

心ヲ好云 法華提婆論說五障ノ義

系トク 善道カ之釋云万年之寶滅此經位百年矣

餘經乃法 無量壽經云當來之世經道滅盡

我以慈悲哀愍特留此經止住百歲矣

曼荼羅 四十七代廢帝天平宝字七年六月廿二日現

廢帝天皇 大炊天皇 淡路帝トモ申奉ル

横秋右大臣豐成 号難波大臣大職冠鎌足之四世孫也

四十六代孝鎌女帝天平宝字元年七月二日流罪云長屋

大臣又横佩 藤氏武智麻一男天平神護元年十一月廿七日薨

息女 東觀漢記此蓋我子息也人息前後如

相續云 從父 續云 子云

中將姫 四十五代聖武帝天平十九年二生ル法名号二法如ト 四十九代光仁帝宝龜六年四月十四日薨二二十九歲

本朝俗說正誤云 光明后ノ寵愛藤原押勝カ兄ノ豊成大臣ノ

娘也始押勝橘奈良丸ヲ諷セシ時兄ノ豊成モ縁アルヨリ竹班此系ニ

移セ又中將姫ハ豊成流人ノ息女ト云。押勝謀叛人ノ姪ナハ旁
身ノ憚アリテ當麻守ニ身ヲ隱シ尼ト成。継母ノ讒ニ非ス母ハ
百能トテ隱ナキ貞女ニテ豊成死去ノ後モ内侍ノ神職ニ仰付
ラレテ禁中ニ仕ヘ百能死去ノ年月モ御記録ニ見ヘタリト

稱讚淨土經

釋迦佛讚歎彌陀淨土經

時正

二月八月晝夜無長短云彼岸又云時正ト

彌陀經云無有衆苦但受諸樂故名極樂

去此不遠

觀經ノ文

大經云

正覺大音響音流十方

涼道

觀經云地獄猛火化為清涼風云

光陰心

顏氏家訓云光陰可惜譬諸逝水云

撰取不捨

觀無量壽經ノ文

爲一切世間說此難信

稱讚淨土經ノ文

慈悲加祐令心不亂

日

光明遍照十方世界

觀無量壽經ノ文

息鐘

息氏ノ鑄出タル故ニ息鐘ト云 或人ノ説

投梭間

さほまゝ

類字

あまのこゝろにひかりをたはねていふはひかりのうらや
まもあまのこゝろにひかりをたはねていふはひかりのうらや
まもあまのこゝろにひかりをたはねていふはひかりのうらや
まもあまのこゝろにひかりをたはねていふはひかりのうらや

謝鯤鄰女有美色鯤嘗拒之女投梭折其兩齒正与

持佛堂 天武天皇の御代、十四年二月廿七日於みこと乃王なり。
諸國每家作佛舎乃置佛像及經以礼拜供養とあり、書
紀より及くあり。民乃家々まで、持佛堂といふ物をかまへて佛を
まつるなり。こまよ皇やたゞまわきん。 玉々のまゝ出





